

桜中だより

長崎市立
桜馬場中学校
校長 大塚 潤

1年のしめくくり 節目を大事にしよう

明後日から12月。いよいよ2024年も最後の月となります。12月は「師走」ともいわれています。1年の終わりが近づき、先生が走り回る、普段落ち着いているお坊さん達

がたくさん、法事で家々を回るなどの、忙しい月。また、「年が果てる(年果つ)や」「四季の果てる月(しはつ月)」「なご」「年の終わりに」「四季の終わりに」という由来から来た説などもあるそうです。

さて、今年は皆さんにとってどのような一年でしたか？4月に新しい学年、新しいクラスの友達、先生と出会いました。大運動会、合唱コンクール、駅伝大会、修学旅行と、「一人で頑張る力」と「みんな



きれいなまちづくり 頑張りました

で頑張る力」を磨き合ってきましたね。

今年も後30日ほどで終わろうとしています。勉強や友達との活動でやり残したことはありませんか。学校生活は4月から始まり、3月で終わりですが、暦は1月から1年

が始まり、この12月で終わります。冬休みに入る前に、活動が途中のものや、年の初めに立てた目標がまだ十分に達成できていない人は、残り少ない日々を大切に使い、しっかりと取り組んでほしいと思います。

学校には、授業の1時間ごとの「節目」から、1日単位・週単位・月単位・学期単位・年単位など、たくさん「節目」があります。大きな行事の前後や何か新しい取組を始める前後も「節目」といえるものもありません。

今回の「節目」は、暦の上での大きな「節目」。節目を迎える前の時期、つまり、今回でいえばこの12月。この時期をどんな心持ちで過ごすかについて、考えてほしいと思います。

意識をもって過ごさないと、時計の針は勝手に進んでいきます。気がつくとも、1月1日を迎えているかもしれない。

「節目」はただのタイミングを表すこともありませんが、その区切りに意味をつけ、新たなスタートであったり、気持ちを切り替え前向きにすすんでいく機会にしていきたいと思えます。「節目」の前

この時期は、これまでを改めて思い返し、うまくできたこと、できるようになったこと、心温まる思い出などを再確認すると同時に、もっとこうすればよかったことや、残念な出来事なども次にどう

するかを考える時期にするのが大切です。その「節目」の後、今回でいえば来年の1月をたいへん有意義なスタートの時期にすることができるとはいえないでしょうか。

「1年の計は元日にあり」と、昔からいわれます。年が明けてから目標を考えるより、年をまたぐ、「節目」を迎える前の今を大切に過ごし、皆さんにとって、素敵な新年を迎えてほしいと思います。

年の瀬という、誰もが慌ただしく忙しく感じる時期。心を落ち着けて、よい1年の閉じ方ができるとよいですね。

クワスでも家庭でも、一人一人ができることをすすんでおこなう12月のように。周りの人とともに気持ちよく生活しよう。自分で考え、自分で判断し、自分で動き出す12月しよう。

3年生は、入試が近づいて不安のために気持ちが揺れ動くこともあります。「安定した気持ちと生活で学習に集中してほしい」これが校長先生の願いです。個人によって入試日程や受験方法などの条件は様々ですが、学年全体の仲間意識と3年生らしい結束力・団結力で不安を乗り越えてほしいですね。

「人権」とは幸せに生きる権利

国際連合は、昭和23年(1948年)第3回総会で世界人権宣言が採択されたのを記念し、昭和25年第5回総会において、世界人権宣言が採択された12月10日を「人権デー」と定めるとともに、全ての加盟国にこれを記念する行事を実施するように呼びかけています。

我が国では、法務省と全国人権擁護委員会連合会により、「人権デー」を最終日とする1週間(12月4日～10日)を人権週間と定め、「世界人権宣言」の意義を普及するための各種啓発事業を実施しています。

今号は、私が30数年の教職生活の中で出会った尊敬するある大先輩からいただいた「じんけんよもやまばなし」を紹介します。

ご家庭で、「じんけん」について語り合うきっかけにいただければ幸いです。「じんけん」とは、「幸せに生きる権利」だと私は思います。

「人権」とは幸せに生きる権利

国際連合は、昭和23年(1948年)第3回総会で世界人権宣言が採択されたのを記念し、昭和25年第5回総会において、世界人権宣言が採択された12月10日を「人権デー」と定めるとともに、全ての加盟国にこれを記念する行事を実施するように呼びかけています。

我が国では、法務省と全国人権擁護委員会連合会により、「人権デー」を最終日とする1週間(12月4日～10日)を人権週間と定め、「世界人権宣言」の意義を普及するための各種啓発事業を実施しています。

今号は、私が30数年の教職生活の中で出会った尊敬するある大先輩からいただいた「じんけんよもやまばなし」を紹介します。

ご家庭で、「じんけん」について語り合うきっかけにいただければ幸いです。

「じんけん」とは、「幸せに生きる権利」だと私は思います。

じんけん よもやまばなし

◆1 立場の違い

妻が珍しく病気で寝込んでしまいました。夫が学校に出勤しようとするとき、妻がすまなさをうに言いました。「ごめんなさい。今晚の夕食は作れそうにもないわ。」

夫は、「わかった。無理すんなよ。俺は外で済ませてくる。」と答えて仕事に向かいました。

「便利になりましたね。」と私が言うと、Aさんは次のように答えたのです。「はい。でも、寂しくもありません。便利さと引き換えにこれまでのように人の手で渡ることがなくなりませんでした。」

◆3 本の皿

夫は思いやりのつもりでしたが、妻は悲しくなりました。夫は、妻の夕食をどうするかを考えてもいなかったのです。

「2人分、何か買って帰るよ。」たったこれだけのことなんです…。

昔、夫婦と老人と4才になる子、4人が一緒に住んでいました。老人は年をとって食べ物を「ぼし、汚く汚すようになりまして。」

そこで夫婦は、老人をテーブルではなく、物陰で食べさせることにしました。老人は涙をため、ため息をつきましたが、何も言いませんでした。

◆4 「はだいろ」ってどんな色?

夫は「はだいろは1本です。少し前ですが、あるメーカーは「はだいろ」という表示をパールオレンジに変えました。

「肌の色とはこんなものだ」「大半の人に当てはまればよからう」「昔から決

まっている「こんな考えが見直されつつあります。幼い頃から、家族や友達、それだけ違った人たちの肌の色をしっかりと見て、それ似合った色を選んで書かせたいものです。」

「妻」は「夫に入れ替え」「男」と「女」を入れ替えてみると、「おやつ」と思う言葉を紹介します。

◆6 シャンプーとリンス

「女へんの漢字にも、家に入る女で「嫁」、ほうき専門の女で「主婦」など。「主人」は男性。「未亡人」(まだ亡くならない人?)は女性に決まっているようです。一方、「母」は、「母校」や「母国」などのように使われます。

◆7 童謡の教え

「目」の不自由な女の子がいました。お風呂で時々、シャンプーとリンスを間違えてしまいます。見かねたお母さんがシャンプーを作っている会社に手紙を書きました。「困っているのは娘だけではないはずですよ。何か工夫できませんか?」

手紙を受け取った会社はすぐに検討を始めた。検討の結果、容器にギザギザをつけることにしました。そして、あえて特許の申請をしなかったのです。ですから他のメーカーも特許なしに同じギザギザをつけ始めました。おかげで消費者はメーカーによって違う区別の仕方を見分ける必要がなくなりました。

作詞した野口雨情は長女をわずか8日間の命で亡くした。「なぜか吹くな」の親心がなんとも切ない。大人がまず守るべきは子どもの命。

♪ 咲いた咲いたチューリップの花が 並んだ並んだ赤白黄色…

人間もそれぞれに個性があるからきれい。しかも、集団の中でこそ光る。「どの花見てもきれいだな」

♪ ぞうさん ぞうさん お鼻が長いのね そうつら母さんも長いのよ

「他の人と違ってたっていいじゃん。お母さん謙

りの自慢の鼻よ」番の歌詞では、「そうつら母さんが好きなよ」と言い切る。いじめなど寄せ付けない母家の賢い子育て。

歌い継がれた童謡にも貴重な教訓があるようです。

12月5日(木)に、13時55分から、人権学習の一環として、長崎県人権同和対策課 於保 孝一氏をお招きして講演会を実施します。タイトルは、「誰もが 自分らしく幸せに生きるために」。

お子様と一緒に「じんけん」について改めて考えてみませんか。

メディアコン川柳コンテスト

- 1 目的
 - ① 桜中生でのメディアに対する意識を高める
 - ② メディアや睡眠の大切さについて家族と考えることでメディアとの付き合い方を考える。
 - ③ 親子で考え、家族とのコミュニケーションを増やす。
 - ④ 応募期間 12月2日(月)～12月13日(金)
- 2 表彰
 - 学校長賞 ○ 教頭賞 ○ 保健室賞
 - PTA会長賞 ○ 学校医賞
- 3 例
 - 例) せいかくのオフの目スマホもオフにする
 - 睡眠中 スマホも私も 充電中

Let's Challenge

立案 運営 あいがく。感謝。

企画